

# 令和6年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

中間支援振り返りシート（2025.3）

活動団体の活動におけるテーマ

『里山と里海の恵みを次世代へ  
自然の恩恵から生まれる森林健康サービス産業の構築』

活動団体の活動地域：広島市・安芸太田町

活動団体名：特定非営利活動法人  
広島横川スポーツ・カルチャークラブ

中間支援主体名：一般社団法人地域商社あきおおた

# 活動計画（概要）

## 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

地域の内・外や年齢・性別・国籍を問わず、誰もが参加できる「場」が提供され、そこから次々と新しいプロジェクトが生まれ続け、地域経済の活性化、地域社会の発展および美しい自然環境が永続する状態

### 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

安芸太田町内で観光に関わる事業者・団体・個人および教育関係者、ならびに町外の企業・団体・教育関係者と、課題に応じた様々な意見が生まれる「場」を創り、魅力的なコンテンツを創出する

### ローカルSDGs事業として取り組む内容

- 森林セラピーロード周遊型観光事業
- ヘルスツーリズム循環・体験プログラム事業
- 里山ガイド育成事業

## 地域の現状

- 広島市街地のデルタ地帯を構成する太田川の源流が流れ、国の特別名勝「三段峡」やパウダースノーが楽しめる恐羅漢山等自然豊かな里山である
- このまちを良くしたいという思いを持った人はいるが、つながる「場」が無い

# 3か年状態目標

## 2026年度末の状態目標

持続可能な周遊型体験プログラムが確立し、運用されるようになる。

## 2025年度末の状態目標

ステークホルダー同士のコミュニケーションがより密になり課題に共に取り組むことで一体感も生まれ、より実施可能な周遊型体験プログラムを具体的に作成、試行するようになる。

## 2024年度末の状態目標

意見交換や情報共有の「場づくり」の機会が確保されることでお互いの課題を認識。そうすることでコミュニケーションがより図られ地域の理解も深まり、関連するステークホルダー同士の信頼関係も構築される。また次年度以降に向け様々なものを「繋げていく」ためのツールとしてLINEアカウントを開設する。

# 中間支援の方針

## ■見立て

- 森林や溪谷の美しさは人々を引き付ける魅力がある
- 活動団体は、外と内の両方の目線で当地域を見ることができ、地域の課題に対してこれから動き始めようとしている
- しっかりとステークホルダーの理解を得られるかがポイント

## ■打ち手

- 安芸太田町ヘルスツーリズム推進協議会の組織の活用
- 外部の企業・団体や有識者等との連携

## ■中間支援機能の強化・振り返り

「地域商社あきおおた」が地域に対してどのように貢献しているのか具体的な事例として地域住民や事業者に伝えることができ、理解と共感を得られるようにしたい



# 活動・支援のプロセスの振り返り

## ■今年度、地域循環共生圏づくりのポイントとして注力したアクションサイクル①

仲間を探す

### 中間支援主体の支援

- **上記アクションサイクルの取組を活動団体が進めるにあたっての見立て**
  - ・どれだけ多様な仲間を探し出すことができるか
- **具体的な支援内容（打ち手）**
  - ・活動団体がアプローチできていない地域の事業者を紹介し「新しい人を入れる」という資源連結
- **打ち手による活動団体の変化（意識・行動・活動の進捗）**
  - ・事業のタネに関わるような多様な仲間をさらに探していくようになった
- **中間支援主体としての気づき・成長**
  - ・活動団体が積極的に仲間を探していく中で、事業者同士の新たな繋がりや事業の可能性を知ることができた

### 活動団体の取組

- **活動名・時期**
  - ・分野を横断した関係者を訪問し、話を聞くことでの情報交換
  - ・通年行っていく
- **なぜそれを実施したのか（実施目的）**

お互いに想いを確認し、新たな気づきを生み出すことでプラットフォームづくりに活かされるため
- **実施したことによって共生圏づくりにどのような変化が起きたか（活動団体自身の変化・周囲の変化等の共生圏づくりに関わる進捗）**

同じ想いを持ってくれている仲間が仲間を紹介してくれ、協働できる仲間が広がった

# 活動・支援のプロセスの振り返り

## ■今年度、地域循環共生圏づくりのポイントとして注力したアクションサイクル②

体制を整える

### 中間支援主体の支援

#### ● 上記アクションサイクルの取組を活動団体が進めるにあたっての見立て

・経験値が少ない中で、どれだけ上手くやっていけるか

#### ● 具体的な支援内容（打ち手）

・できるだけ俯瞰しながら状況を整理し、落としどころを探していく

#### ● 打ち手による活動団体の変化（意識・行動・活動の進捗）

・どのようにすればステークホルダーの理解が得られ、前向きに取り組んでいけるかを意識して運営するようになってきている

#### ● 中間支援主体としての気づき・成長

・支援をする際は事例などを持ち出して、具体的に実施する必要があることが分かった。

### 活動団体の取組

#### ● 活動名・時期

・事務局内における体制づくり（役割分担）  
・活動当初より（今後も常に見直しあり）

#### ● なぜそれを実施したのか（実施目的）

他の参加団体とは違ってチームとして活動していくにあたり、より円滑な運営を行っていくため

#### ● 実施したことによって共生圏づくりにどのような変化が起きたか（活動団体自身の変化・周囲の変化等の共生圏づくりに関わる進捗）

時間の経過と共にチームとしての役割分担が明確になり、それぞれがより効率的に取り組めるようになった

# 活動・支援のプロセスの振り返り

- （特に前2スライドの支援を実施するにあたり、）今年度、力を入れて取り組んだ中間支援は？（中間支援機能チェックリスト.xlsxより上位3つを選んで記入）

協働ガバナンスの項目	中間支援機能	項目（番号）	支援をしたタイミング等
チェンジエージェント機能	立地拠点機能	(3) ①	チームミーティングの時、ステークホルダーミーティング準備
チェンジエージェント機能	変革促進機能	(1) ⑨	日常的なコミュニケーションの中で（主は定例MTGの時）
チェンジエージェント機能	プロセス支援機能	(2) ③	各種資料等作成時

## ● 共生圏づくりを進めるために、活動団体の能力をどう引き出せたか

- ・できるだけ多くのステークホルダーを巻き込むため、活動団体へ新たな事業者等の情報を与えることで、地道に対話を積み重ねて事業への理解者を増やすことができた
- ・文書化の支援を続けることで、自身の想いを分かりやすく纏められるようになってきた

## ● 中間支援主体として向上したと思う中間支援機能

- ・活動団体の運営を軌道に乗せるために必要な支援および支援の密度に対する理解が深まった
- ・環境省の事業に対する理解が進み、本事業の中での立ち位置や、実施すべきことなどが明確になった

## ● R6課題だと感じたこと

- ・中間支援主体として環境省事業の本質（構造）をもっと早く理解すべきであった
- ・活動団体の自主性や主体性に配慮しながら、どこまで支援すべきかの線引き

# 地域循環共生圏づくりに向けた次のアクション

- **地域循環共生圏づくりのために、どのような中間支援機能を発揮できるといって考えているか。R7～中間支援主体として今後どのようになりたいか。**

- ・活動団体との距離感をさらに縮めながら「喝を入れる」「癒しとなる」という支援手法の獲得を目指したい

- ・活動団体から頼りにしてもらえるようになること、また、各ステークホルダーからの信頼を得ることを目指したい

また、単なる中間支援主体ではなく活動団体と一体となった取り組みのあり方を模索したい

- **活動団体がアクションサイクルを回せるようにするための次年度の見立て・打ち手（具体的な支援策）**

<見立て>

- ・事業主体を探し出して事業を生み出すフェーズまで持っていけるのか

<打ち手>

- ・事業計画の策定や事業資金調達に対する資源連結機能や問題解決提示機能を発揮し、専門家や企業・経済団体の紹介、他地域や先進事例の紹介などによる具体的な支援を行う

- **地方・全国事務局にサポートしてもらえると嬉しいこと**

- ・事業を生み出すための事業主体の組成や事業計画策定、資金調達などについて、できるだけ多くの類似する他地域や先進地における詳細かつ具体的な事例紹介

- ・初年度団体に対する「中間支援機能チェックリスト」ワークショップの開催